

オホーツク海 4 月 魚探情報

—試験調査船「北洋丸」による海洋観測および魚群分布調査の結果—

平成 29 年 5 月 2 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場

(担当：調査研究部 鈴木 0162-32-7166)

- ◎オホーツク海沿岸域の底層水温は過去 2 年より低かった
- ◎スケトウダラと見られる魚群反応量は過去 5 年の中では比較的高かったが、枝幸沖の魚群は小型の若齢魚が主体と考えられた
- ◎宗谷岬東方沖ではイカナゴ類と見られる魚群反応が多数観察された

1 調査概要

2017 年（平成 29 年）4 月 25～27 日に稚内沖～網走沖のオホーツク海において、試験調査船北洋丸により、海洋観測および計量魚探を用いた魚群分布調査を実施しました。

2 水温観測の結果

調査海域における底層水温（海底上 2～5 m）の分布を図 1 に示します。今年 4 月の底層水温は、2015 年、2016 年と比較して低くなっていましたが、宗谷管内の沿岸域では宗谷暖流の流入により 4℃以上となっていました。

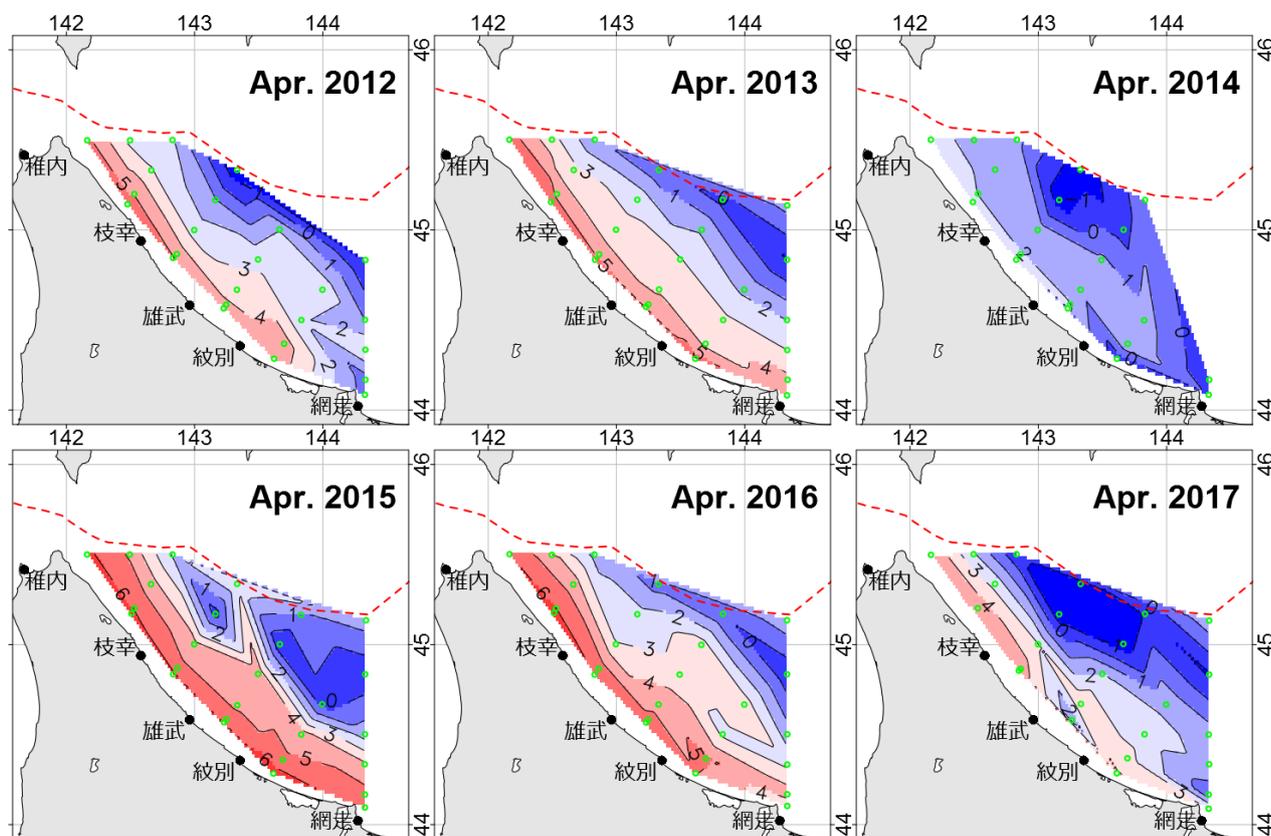


図 1. 北海道沿岸オホーツク海における底層水温（℃）の分布. 2012～2017 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果

計量魚探で得られた1マイルあたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、枝幸沖の陸棚上や北見大和堆周辺の斜面において、スケトウダラと考えられる魚群反応（図3）が観察されました。今年度の反応量は過去5年の中では比較的大きかったものの、特に枝幸沖の水深100~130 mでは魚探反応の特徴から小型の若齢魚が主体と考えられます。一方、宗谷岬東方沖の水深100 m以浅では、過去2年と同様にイカナゴ類と見られる魚群反応が多数観察されました。

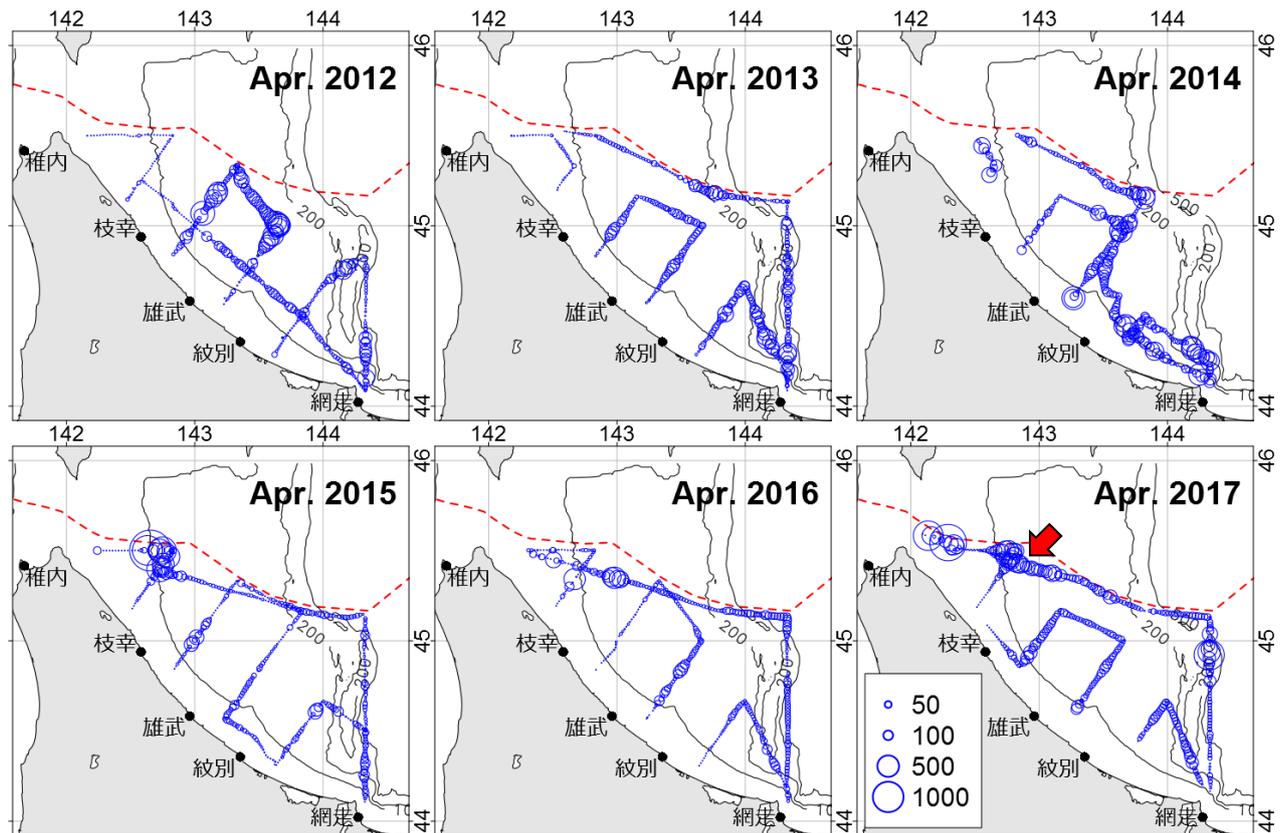


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 NASC (m^2/nm^2) の分布. 2012~2017年4月.

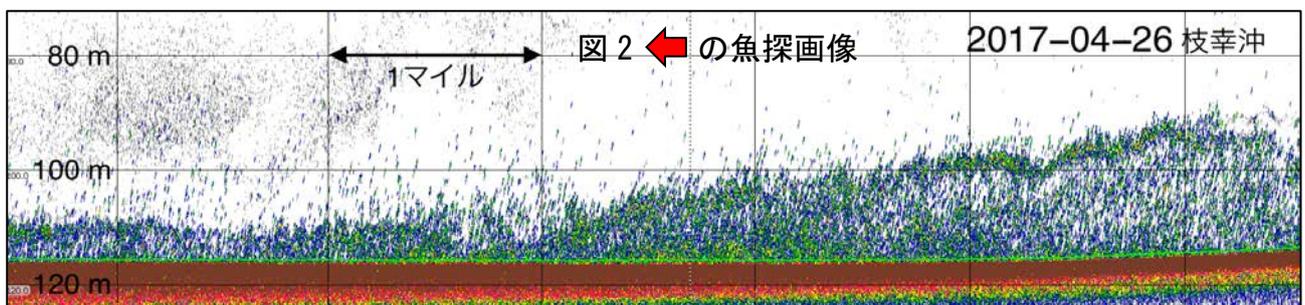


図3. 2017年4月26日の魚探画像（スケトウダラ）：枝幸沖の水深115 m付近.